

わが

市民協働×リノベーションで パワーアップする まちの魅力発信

笑顔で暮らせるまち

坂井市は、平成18年3月20日に坂井郡の三国町・丸岡町・春江町・坂井町の4町が合併して誕生し、本年度で市制10周年を迎えました。

市内には、県を代表する国指定名勝「東尋坊」や、北前船交易による繁栄の面影が町並みに残る

「三国湊」、1576年に建造された天守閣を持つ「丸岡城」など、多くの観光名所を有しています。



女優の竹下景子さんも出席した三国湊町家PROJECTグランドオープンセレモニー

また、市の南部には九頭竜川が、東部には竹田川が流れ、その豊かな水の恵みにより市内では特Aランクのコシヒカリやアキサカリ、高い食味値を

誇る特別栽培米「花あかり」の栽培が盛んに行われています。

一方、近年では「住みよいまち」としての注目も高まっています。特に東洋経済新報社の調査による、全国の市を対象とした「全国住みよさランキング」では、ここ4年連続でトップ5に入るなど、高い評価をいただいています。市のキャッチフレーズ「笑顔で暮らせるまち」は、まさにそんな坂井市の暮らしやすさを伝えるためのフレーズとなっています。

市民の力で、丸岡城を国宝に！

本市では、この10年、新しいまちづくりの方向を協働によるまちづくりと定め、住民主体の組織「まちづくり協議会」を軸に、地域コミュニティの醸成と地域づくり

活動を進めてきました。

また、その拠点として平成27年度からは、各地区にあったすべての公民館がコミュニティセンターとして生まれ変わり、さらなる協働によるまちづくりが進んでいます。

こうした中、市内ではこの春、市民の力により国宝化への機運を盛り上げる「丸岡城天守を国宝にする市民の会」が発足。

行政や議会、企業もバックアップに動くなど、市民による活動がまちづくりの輪を広げています。

リノベーションで伝える まちの魅力

本年、地域の思いが詰まった2つのリノベーション事業が完成し、これまでの観光地に加え、新しいまちの魅力が誕生します。まず、3月に竣工したのが「三



竹田農山村交流センター「ちくちくほんぼん」(奥の建物)。ネーミングは、竹田の竹(ちく)と、ほん(子ども)にちなんだもの

北前船交易により栄華を誇った町並みを整備するとともに、このまちづくりに一緒に取り組んでくれる事業者を全国から募集。アレックス・カー氏監修によるゲストハウスのほか、蔵を改修したフレンチデリショップやアメリカンアンティークを扱う店などが誕生し、休日には若い女性客や2人連れの観光客も目立つようになりました。また、通りの中心には町家を利用したミニミュージアムと公園もオープンしています。

一方、市の山あいにある竹田地

区では、山々に囲まれた美しい自然の中、旧小学校を改修した交流体験型の宿泊施設「ちくちくほんぼん」が本年7月にこちらもオープン。全国からの修学旅行や合宿、企業研修の受け入れをスタートします。

広がる交流 特別区全国連携プロジェクト

坂井市版まち・ひと・しごと総合戦略の施策の一つに、地方との共生を掲げる「特別区(東京23区)全国連携プロジェクト」に積極的に取り組んでいる品川区との連携があります。地方創生で問われる東京や大都市圏との「格差」の問題には、対峙^{たいじ}ではなく、「共創」に地域活性化の機会点を求めています。

連携に至った背景には、空路での交通アクセスの良さや産業の集積のほかに、東海道および北前船航路の要衝としてそれぞれ発展してきた文化の共通点や、下町人情の残る品川区の風土に本市と相容れるものがあつたことが挙げられます。こうしたことは、市民が交流する上で大切な要素だと考えるからです。

現在、品川区民の皆さんには、

本市を知っていただくためのイベント開催などの事業を、品川区からは本市の教育制度に対する視察をいただいております。本年度もより一層、交流の輪を広げていきたいと考えています。

また、広域連携の面では平成27年、城をテーマにした弘前市との交流も生まれています。両市には、現在国内に12城しかない江戸時代前からの天守閣があり、弘前さくらまつりや、本市が首都圏で主催するインバウンドへの情報発信イベントなどで連携を計画しています。

全国シティプロモーションサミットにご来場を

総合戦略は、産業振興や住環境の整備、生活関連サービスの充実などにより、地方の成長力の確保を目指すものです。

しかし、その目的を達成するためには、人々の地域への理解と愛着に加え、市内外の方々や企業などの団体に、成果によって高まった魅力に目を向けてもらうためのシティプロモーションが必要となります。

本年、本市は、その全国のシ

ティプロモーションに携わる自治体の職員が一堂に会し、情報交換や共有を図る「全国シティプロモーションサミット」の開催地となりました。

これまで、平成25年尼崎市(関西)、同26年相模原市(関東)、同27年弘前市(東北)と開催されてきた大会で、本年は北陸の本市を会場に第4回の大会となります。

プロフィール

- ◆ 面積 209.67km²
- ◆ 人口 9万2954人
- ◆ 世帯数 3万806世帯

〔将来都市像〕輝く未来へ・・・
みんなでつくる希望の都市(まち)

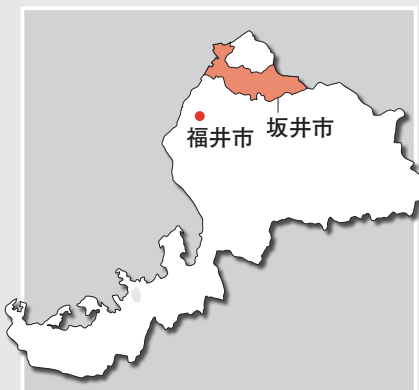
〔まちの特徴〕豊かな自然環境、輝かしい歴史・伝統文化、恵まれた産業基盤を生かしながら発展してきたまち

〔市町村合併〕平成18年3月20日 三国町・丸岡町・春江町・坂井町の4町合併

〔特産品〕越前がに、コシヒカリ、越



坂井市長
坂本憲男



テーマを「シティプロモーションで加速する地方創生」とし、品川区との共催で開催します。
自治体のマーケティングを学んでいただくとともに、本文で紹介した観光地やプロジェクトをご覧いただく機会です。ぜひとも、地方創生やシティプロモーションにかかわる皆さまのご来場をお待ちしています。

前おろしそば、花らっきよ、竹田の揚げ、もみわかめ、越前織、浴衣帯
〔観光〕東尋坊、丸岡城、三国湊の町並み、ゆりの里公園、竹田の里

〔イベント〕全国シティプロモーションサミット/開催日:10月26日(水)27日(木)、会場:ハートピア春江、三国観光ホテル、対象:市区町村職員、地方議会議員 ※開催概要・申し込みは坂井市ホームページ参照(参加無料)

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

海と緑と人がともに歩む 元気いっぱいいなまちづくり

はじめに

勝浦市は千葉県の房総半島の南東部に位置し、東京から特急列車で90分の距離に位置しています。

四方を海と山の豊かな自然に囲まれ、古くから漁業・農業・観光のまちとして栄え、現在、初カッオ



日本の渚100選にも選ばれた守谷海岸

の水揚げ量は全国有数です。また、東洋一の規模を持つ海中展望塔、日本の渚100選に選ばれた海水浴場など観光資源も豊富です。さらに、平成27年の「B-1グランプリ」でゴールドグランプリを獲得したまちおこし団体「熱血!!勝浦タンタンメン船団」の活躍により人気急上昇の「勝浦タンタンメン」や、今や本市の代名詞ともいえるイベント「かつうらビッグひな祭り」や「勝浦港カッオまつり」をはじめとする年間を通して多彩なイベントの開催により、観光地としての魅力を高めています。

一方で市政に目を向けますと、昭和33年の市制施行時の約3万人をピークに人口減少が続ぎ、現在は約1万9000人にまで減り続けています。少子化や若者の転出などが地域経済を逼迫させるなどの水揚げ量は全国有数です。また、東洋一の規模を持つ海中展望塔、日本の渚100選に選ばれた海水浴場など観光資源も豊富です。さらに、平成27年の「B-1グランプリ」でゴールドグランプリを獲得したまちおこし団体「熱血!!勝浦タンタンメン船団」の活躍により人気急上昇の「勝浦タンタンメン」や、今や本市の代名詞ともいえるイベント「かつうらビッグひな祭り」や「勝浦港カッオまつり」をはじめとする年間を通して多彩なイベントの開催により、観光地としての魅力を高めています。

負のスパイラルを生み、今後とも一層の人口減少と少子高齢化が見込まれます。このような中、人口減少と地域経済縮小の克服を図るため、平成27年10月に「勝浦市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。この戦略を基に本市を元気にする取り組みを、市が一丸となり進めてまいります。

産業振興・企業誘致・就業支援による働く場の確保

働く場がないことが若者の転出につながる大きな要因となっており、喫緊の重要な課題が「雇用の創出」です。市では、地場産業の強化をはじめ、企業誘致、就業支援などにより、雇用の場の確保に努めてまいります。

まず、地場産業である農業や漁業に関しては、新規就農漁業者への支援など後継者の育成やマダロ・キンメダイなどの水産物のブランド化、遊休農地を活用した農産物の開発などを通して、地域産業の振興に取り組んでいきます。

また、市の中心にある商店街には空き店舗が少なくありません。そこで、空き店舗を利用して、開業を希望する方々が活用しやすい体制を整え、商店街の活性化を狙います。

企業誘致に関しては、市の地形上平坦な土地が少なく、用地の確保や開発が難しい中、平成13年に閉園になったレジャー施設跡地を利用しての宿泊型リゾート施設の開発が民間主導で進められております。そのほかにも、統合に伴い空き校舎となる学校の跡地を活用しての企業誘致も検討しております。

さらに、自然の豊かさや首都圏への好アクセスといった市の強みを生かしIT関連企業やサテライトオフィスの誘致にも力を入れていきます。

観光・交流、移住・定住

本市は海と緑の美しい自然に加え、歴史ある名所、年間を通じたさまざまなイベントなど多くの観光資源に恵まれており、年間約110万人の方々をお迎えするなど観光地としても知名度を高めています。

さらに、一昨年12月に開館し、県の建築文化賞優秀賞にも輝いた市芸術文化交流センターでイベントを開催するなど、有効利用を図り、交流人口の拡大を目指すとともに、移住・定住につなげていくための体制を整えます。

今後は、観光案内所を軸に観光情報の整理を行うとともに、動画配信などのPR活動に力を入れ、さまざまな情報を広く発信していきます。また、東京オリンピックを4年後に控え、

全国的にも訪日外国人客数が増える中、外国人旅行者に対応した情報発信体制を確立してまいります。また、400年余り続く歴史ある朝市や各種イベントのリニューアルを検討し、観光客誘致を推



徳島県勝浦町より7000体の雛人形を里子として譲り受け始まった「かつうらビッグひな祭り」

進していきます。

移住・定住策としては、田舎暮らし体験や、若者の定住を促進するための奨励金の交付、さらに単身者向けアパートなどをファミリー向けに改装した際に、アパート経営者に対しての補助などの支援を行います。

地域交流・地域振興の促進

市民のまちづくりへの参加意識の向上、健康寿命の延伸、地域振興拠点の整備などにより、市民が主体となり、子どもから高齢者まで心身ともに健やかに暮らせる環境を整え、併せて地域交流の活性化を図ります。また、本市にある国際武道大学と連携した各種スポーツ教室の開催により健康づくりを推進するほか、友好都市であ

る西東京市、全国勝浦ネットワークの徳島県勝浦町、和歌山県那智勝浦町ともなお一層の産業・文化交流の推進を図ってまいります。また、道の駅の整備を計画し、地域住民の交流はもとより、生活利便性の向上や雇用の創出にもつなげていきます。

子育て・教育環境の向上と充実

子育て世代のライフスタイルの

プロフィール

- ◆ 面積 93・96 km²
- ◆ 人口 1万9258人
- ◆ 世帯数 8980世帯

〔将来都市像〕海と緑と人がともに歩むまち「元気いっぱいかつうら」。

〔まちの特徴〕海と山の豊かな自然が織りなす風光明媚な景勝地。漁業・農業・観光のまち

〔特産品〕カツオ、キンメダイ、イセ



勝浦市長
猿田寿男



エビ、アワビ、勝浦タンタンメン、勝運カツ、地酒、米、房総なるかポーク、タケノコ、キウイフルーツ

〔観光〕勝浦朝市、勝浦海中公園、鶴原理郷郷、八幡岬公園、官軍塚、花野辺の里、勝浦漁港

〔イベント〕かつうらビッグひな祭り、勝浦港カツオまつり、かつうら若潮まつり花火大会、勝浦大漁まつり、かつうら魅力市、勝浦鳴海ロードレース大会

変化や子育てに係るニーズに対応し、子どもを産み育てる世代の希望を実現するために、婚活の支援、不妊治療への助成、オムツ等子育て必需品の助成、第3子以降の保育料の軽減など、妊娠から出産、また産後にかけても切れ目ない支援を充実させます。また、幼保連携型認定こども園の整備や子どもによるまちづくり事業などを通して、子どもたちの教育・生活環境の充実も目指します。

※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「平成27年国勢調査」による。

大金星のまち、とよあけへ

桶狭間の戦いがあった 歴史のまち

豊明市は名古屋市の南東に隣接するベッドタウンです。1560年（永禄3年）、織田信長が今川義元率いる2万5000人の大軍をわずか3000人の兵力で破り、



桶狭間古戦場まつりでの合戦再現劇

後の快進撃へとつながった桶狭間おけはざまの戦いがあった地です。市内には国史跡「桶狭間古戦場伝説地」に今川義元が戦死した場所を示す石碑や墓碑があるほか、合戦前夜に義元軍が入城した沓掛城址くつかけじょうし、戦死した兵士を弔う戦人塚などが点在しています。

織田信長が大金星を挙げた場所という切り札を持ちながら、国史跡に指定されているがゆえに、史跡内での改築などは許されず、また住宅に取り囲まれているため駐車場の整備もままなりません。本市は過去、観光地としての発展が進まず、自治体としての知名度も低いままでした。

そこで、本市は国の地方創生関連予算を活用して観光拠点整備をやり直すこととし、本年度からは新たな観光戦略として「大金星の

まち とよあけ」としてアピールを開始しました。平成27年度は歴史の語り部であるガイドボランティアの待機所を建設し、観光マップや観光PRビデオを作成。

本年度は市内の駅前に観光案内板を設置し、貸し自転車事業も始める計画です。新しい事業により、点在する観光拠点を線で結び、本市を訪れた方に寄り道してもらい、長く滞在していただく狙いです。

6月第1土・日曜日に開かれる「桶狭間古戦場まつり」についても、隣接する名古屋市長緑区側と互いに協力をスタート。全国規模の祭りへの発展を目指しています。また、高さ

12mに丸太2本を渡したやぐらの上で獅子舞を演じる「大脇の梯子獅子（毎年10月第2日曜日に大脇神明社で開催）」など市内にあるほかの観光資源との連携も強めています。

広域連携で持続的発展を目指す

本市は人口が7万人に届かない小さな市です。ほかの自治体との広域連携強化は市の持続的発展に欠かせません。現在、本市は消防を単独で運用していますが、市の北側に位置する日進市・みよし市・東郷町ひがしでつくる尾三消防組合びさんおよ



愛知県指定無形民俗文化財の大脇の梯子獅子

び長久手市と消防広域化協議会を本年4月に設置しました。10年前の消防組織法改正以降では県内での初の協議会です。これら4市1町は既に水道事業で一部事務組合を構成しており、広域連携の拡大に向けて多様な協議を進めています。

民間・大学との連携で 超高齢社会を乗り切る

本市は約40年前に開発が進み人口が急増しました。しかし、この数年は人口が横ばいとなる一方、高齢化率は24%を超えました。

市内には55棟に2000世帯以上が暮らすUR都市機構の豊明団地があります。この団地内に市内の藤田保健衛生大学が「ふじたまちかど保健室」を平成27年度にオープン。看護師や理学療法士らが無料で市民の健康相談に応じるほか、健康講座を毎日開講しています。

本市では、市内の125にのぼる医療・介護事業所が電子連絡帳を使って互いに患者・要介護者への連携を図る「いきいき笑顔ネットワーク」が既に稼働しています。本年度は、URと同大学に加え、

医師会などの協力も得て、市が同団地内に医療介護連携拠点を整備します。

市は行政区や町内会など地域力アップを進めています。平成27年度に17カ所から37カ所まで増やした地域サロン拠点を、本年度はさらに60カ所まで増やし、貯筋体操などの実施により、高齢者の外出と健康増進を促す計画です。また、郵便、新聞、宅配など多様な民間事業会社と協定を結び、高齢者への見守り体制を構築しています。

住み続けたい 「学びのまち」へ

藤田保健衛生大学は、国内最大規模の病床数を備え、最先端医療を行う同大病院を運営し、救急医療も充実させています。同病院の恩恵により、本市の救命率は全国トップレベルです。

市内にはほかに、保育・幼児教育などを行う桜花学園大学と名古屋短期大学があります。市は市内の保育園で働く無資格の職員が保育士資格を得るための教育プログラムを桜花学園の協力で開始し、同様に藤田保健衛生大学とは看護師の再教育を実施する計画です。

また、本市は全国の市に先駆けて「小規模企業振興基本条例」を平成27年度に制定しました。条例の一環として、市外の名古屋商科大学との連携により、本年度から市内事業者向けのビジネス講座を始めます。

本市は人口増加を最重要施策に位置付けています。市内に住み続けたいと思ってもらうには、学校教育の充実が欠かせません。本年

度からは中学生向けの土曜補習学習やイングリッシュキャンプ、生活保護世帯の児童生徒向けの学習支援など、子どもたちが学ぶのが楽しいと実感できる学習環境づくりに向けて新規事業を次々と始めます。大学入学支援事業も開始し、「子育てはぜひ豊明市で」と思っていただけの施策を充実させ、小さな自治体ながらも大金星を挙げていく所存です。

プロフィール

- ◆ 面積 23・22 km²
- ◆ 人口 6万8722人
- ◆ 世帯数 2万8883世帯

〔将来都市像〕 みんなでつなぐ、しあわせのまち とよあけ

〔まちの特徴〕 名鉄本線により名古屋駅まで約20分。医療機関が充実し、自然と歴史あふれる住宅都市

〔特産品〕 白菜、ぶどう、いちご、トマト



豊明市長
小浮正典



〔観光〕 国史跡「桶狭間古戦場伝説地」「戦人塚」「阿野一里塚」、JRA中京競馬場、二村山、勅使水辺公園、三崎水辺公園夜桜、豊明夏まつり・豊明（秋）まつり

〔イベント〕 桶狭間古戦場まつり、大脇の梯子獅子、上高根警固祭り、豊明の大根炊き（曹源寺）、二村山花まつり、三崎水辺公園夜桜、豊明夏まつり・豊明（秋）まつり

※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「夢をかたちに 未来に光り続ける まち 豊後高田市」の実現に向けて

はじめに

豊後高田市は、千年の歴史が息づく神仏習合の地として、奈良時代から平安時代にかけて開花した六郷満山文化が今も色濃く伝えられ、国宝「富貴寺大堂」をはじめ、貴重な文化財が市内各所に点在しています。また、山里では、希少な景観として国の重要文化的景観に選定され、世界農業遺産認定の核となった「田染荘小崎」に代表される、日本の原風景ともいえる美しい田園風景が広がっています。



国の重要文化的景観にも選定された「田染荘小崎」

寂れた商店街に奇跡が起こる

本市は、県北地域約10万人の商圏を持つ都市として大いに栄えた歴史がありますが、昭和30年代にまちのにぎわいはピークを迎え、その後急速に衰退していききました。平成に入ると、かつてのにぎわいも過去の歴史に近いものとなり、ついに商店街を歩くのは、人よりも犬や猫の方が多くとまで表現される様相となり、私が市長に就任した平成10年当時、商店街の3分の2の店舗のシャッターが下りている状態でした。

この寂れた商店街を何とかして復活させようと、本市が一番元気であった昭和30年代をテーマに、「豊後高田昭和の町」の取り組みを平成13年にスタートさせました。この取り組みは、商店街の建物の

70%が昭和30年代以前のものであるという特性を生かし、普通の商店街を昭和30年代の商店街に再生することにより、観光地としてよみがえらせ、活性化を図るという、まさに逆転の発想によるものです。

「昭和の町」づくりは、国、県の補助制度を最大限に活用し、まさに官民を挙げて取り組みました。その結果、観光客がほぼゼロだった商店街に年間40万人を超えるお客さまにお越しいただけるまでになり、さらに、平成24年には、まちづくり日本一の賞ともいえる「まちづくり情報交流大賞」を受賞し、商店街再生の成功モデルとして、全国からも注目されるようになりました。

県下トップクラスの教育水準に

本市の教育水準は、かつては県

下で最下位を争うほどであり、教育のまちづくりは本市にとって喫緊の課題でした。私は教育環境を改善するため、まず、学校管理職の意識改革を図るとともに、先生方のモチベーション向上のため、先進地視察を積極的に推進しました。

また、小学校が襲われるという事件を契機に、地域で子どもたちを守り、学校教育にも積極的に関わっていただくため、学校を公開することが重要だと考え、県下で最初に公開授業を導入しました。

そして、本市の教育行政で大きな転機となったのが、平成14年に導入された学校週休二日制です。本市には民間の学習塾が少なく、都市部の子どもたちとの教育格差がさらに拡大することが懸念されたことから、子どもたちに土曜日に学びの場を与えようと、市営の塾である「学びの21世紀塾」を立ち上げました。この取り組みは、土曜日授業のモデルと評価され、「豊後高田方式」として文部科学大臣からも全国に広く紹介してい



昭和30年代をテーマにした「豊後高田昭和の町」

ただきました。
 現在では、本市の子どもたちの学力水準は県下でもトップクラスとなり、難関国立・私立大学に多くの生徒が進学するようになりました。

過疎のまちが人口の社会増に

本市は、全域が過疎地域に指定されており、人口減少が続く、このままでは地域の活力が維持できず、市として存続していけないという強い危機感から、平成23年度より直接的に人口増に結びつく施策を、市を挙げて実施してきました。

結婚機運の醸成を図るため、婚活・結婚応援体制づくりを行うとともに、住環境整備を積極的に進めました。子育て応援住宅などの整備のほか、若い方々でもマイホームが持てるように、国の交付金を活用し、良質で低廉な定住促

進住宅団地の造成も行いました。

また、移住を希望される方々の多様なニーズに、きめ細やかに応えるため、空き家バンクの充実を図るとともに各種支援事業を設け、本市での暮らしを全力でサポートする体制を整えています。移住に関する情報発信も積極的に

行い、平成27年に「全国移住ナビ」の全国コンテストにおいて、総務大臣賞を受賞しました。本市の支援事業を活用して移住される方は年々増加し、大手出版社の特別企画「住みたい田舎ベストランキング」でも4年連続ベスト3となるなど、全国から注目されています。

このように市を挙げての定住促進施策が実を結び、近年では人口の「社会増」を達成しています。

おわりに

本市は、これまで市民とともに築き上げてきた成果を基盤に、今、直面している人口減少問題の克服と地域の活性化に向け、さらに取り組みを強化していく必要があります。

従来から力を入れている定住促進施策に引き続き取り組むとともに、交流人口のさらなる拡大を

目指します。そのため「田染莊小崎」に代表される日本の原風景ともいえる資源を生かし、「千年村構想」として都市部では味わえない夢を持つて暮らせる「心いやす郷づくり」を推進します。また、本市の海岸線を走る国道213号沿いには「縁結びの神様 粟嶋神社」や「夕陽の絶景スポット・真玉海岸」「花とアートの岬・長崎鼻」など、ロマ

ンティックなスポットがたくさんあることから、これらを結ぶルートを通り「恋がかなう道」「恋叶（こいかな）ロード」と名付けて、若者を引きつける新たな魅力の創出などに取り組んでいきます。今後とも市民とともに、「夢を私たちに 未来に光り続けるまち 豊後高田市」の実現に向け邁進してまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 206・24km²
- ◆ 人口 2万3300人
- ◆ 世帯数 1万575世帯

〔将来都市像〕千年のロマンと自然が奏でる交流と文化のまち

〔まちの特徴〕六郷満山文化や世界農業遺産など仏教文化や日本の原風景を持つ山里と砂浜やリアス式海岸、花の岬など美しい風景が広がる海岸線、昭和の町や六郷温泉など観光資源に恵まれたまち。穏やかな気候で災害も少ない

後高田市、真玉町、香々地町が対等合併
 〔特産品〕そば、落花生、岬ガザミ、菜の花油、ひまわり油、白ねぎ、豊後・米仕上牛
 〔観光〕国宝「富貴寺大堂」、世界農業遺産の郷、国の重要な文化的景観「田染莊小崎」、豊後高田昭和の町、恋叶ロードなど
 〔イベント〕ホーランエンヤ、天念寺修正鬼会、若宮八幡秋季大祭・裸祭り



豊後高田市長 永松博文

〔市町村合併〕平成17年3月31日、豊



※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。